

自治体や企業の防災のデジタル化を
支援するIT企業の代表



やまもと たつのぶ
山本 竜伸さん(48)

システムは「PREIN^{プレイン}」。大分大と同社の親会社ザイナス(同市)などが開発した災害情報活用プラットフォーム「EDISON^{エディソン}」の技術をベースに商用化した。インスピレーションプラスは今年、大学発ベンチャーに認定された。「他県の自治体や企業にもノウハウを提供し、各地で得た知見を大分県内に還元したい」と語る。

豊後高田市香々地出身。県内の半導体関連企業を経て2007年、ザイナスに入社した。「ITで地域に貢献できれば」とエジソンの開発チームに参加。豪雨災害などが頻発する中、各自治体の対策の高度化に生かしてもらおうと22年にインスピレーションプラスを立ち上げた。

大分市内で妻、次男(18)と暮らす。長男(20)は東京の大学で学んでいる。2年前に自動二輪の免許を取得。休日はツーリング先で温泉を楽しみ、非日常感を味わっている。

(清松俊朗)

ひとと

「災害はいつ起きるか分からず、事前の備えが重要になる。安全安心な社会づくりに向け、高度な情報技術を生かしたい」

大分市のIT企業「インスピレーションプラス」の代表取締役を務める。雨量や河川水位など刻々と変化する気象情報を組み合わせ、人工知能(AI)を生かして災害の発生リスクを推定する機能を備えた防災システムの活用を官民に促している。

各地での知見 県内に還元